

独唱とピアノの夕

独唱 野崎住子 ピアノ 古畑敬子 於産経會館 大阪駅前 櫻橋

1952

昭和27年11月21日

主催

後援

クラブ・ファンタジー
神戸女學院同窓會



野崎住子さん

—その香り高い声楽芸術—

野崎住子さんは、神戸女学院の音楽部を卒えてアメリカに留学し声楽を研鑽の上、母校に帰つて以来、地道に研究を続けながら後進の指導に専念して来た人である。派手なステージ生活を送つた人とは類を異にするが、でも屢々“救世主”や“第九”のソロを歌い、又教会音楽にも奉仕し、健全な経歴を有する点で

稀に見るソプラノ唱者である。のみならず、先年長きに亘つてカラスロワ夫人に師事されたこともあり、オペラ方面での造詣も積まれている。

唱法は練磨された基礎技巧と、広い声域を持ち、殊にアルトに接した部分で安定感がある。声楽に必要な語学の学殖も豊かであるから、それが、曲の解釈と、歌唱に大きな強みとなつて現われる。其の上、女史の淑やかな性格と教養から来る高い香りのある声楽芸術が、今回の演奏会で一般好楽家の前に披瀝されることは大いに意義あることと思つて、心からお薦めしたい気がする。

伴奏塚本保子

クラブ・ファンタジーとは

かつて神戸女学院音楽部に学んだものゝ有志よりなるささやかなグループであります。学窓を離れた後もお互にはげまし合い、研究に、修養に共に進み、私達の音楽勉強を通じて、いさゝかなりとも社会のお役にたてたらという願いを持つて誕生いたしました。

こゝに皆様の忌憚なき御批判と御鞭撻を乞う次第でございます。

古畑敬子さん

—秘めたる情熱—

古畑敬子さんは、昭和8年神戸女学院音楽部を卒業、その年の読売新聞社主催の新人演奏会でベートーヴェンの“エロイカ変奏曲”をもつてデビューし、上野出身の豊増昇、水谷達夫君と競い、楽壇にKC音楽部の真価を知らせた。研究科を卒えてから母校の助教授になつたが、15年ボストンのラドクリフ・カレッジの交換学生に選ばれて渡米、ニューイングランド音楽院に入つてボストン交響楽団の独奏者ハーバート・ガーディング教授に師事した。翌年ボストンのジョルダンホールの演奏会で熱情ソナタを演奏して好評を博したのを土産に帰国した。

古畑さんが始めてリサイタルを持つたのは12年5月神戸で、以来関西楽壇で活躍しBKの常連ピアニストだつた。17年1月京都と大阪で尾高尚忠氏指揮の京都交響楽団とグリークのピアノ狂奏曲を奏したのが最後で戦争は演奏会を不可能にした

演奏曲目が示すように古畑さんはベートーヴェンを中心とするオーソドックスのものだけでなく、アメリカ留学で養われた現代音楽に対する洗練された感覚を持ち、更にフィンランドの作曲家カスキやメリカントの作品の如き珍しいものをも紹介する。女史は、ピアノ音楽にひたむきな情熱を捧げて不断の勉強を続けている。街氣と誇張が微塵もない慎重で純粋な演奏態度は推賞さるべきである。

—張源祥—



Programme

- I Sonata Op. 57. (Appassionata) Beethoven
 Allegro assai
 Andante con moto
 Allegro, ma non troppo
- II (a) Romance Op. 12 Merikanto
 (b) Evening dance of the mountain god. Op. 15. No. 1. Kaski
 (c) Fantastic dance of Krakow. Op. 14. No. 6. Paderewski
- III (a) Vom Namen Jesus..... Schütz
 (b) Mein gläubiges Herze Bach
- IV (a) Paysage Hahn
 (b) Les roses d'Ispahan Fauré
 (c) Green Debussy
 (d) Fantoche Debussy

Intermission

- V (a) The maiden's wish (Chant Polonais) Chopin-Liszt
 (b) Mephisto Waltzer Liszt
- VI (a) Wohl zu eignen Leid Rachmaninoff
 (b) Nicht Worte Geliebter Tschaiowsky
 (c) War ich nicht ein Halm Tschaiowsky
- VII (a) Sheep and the lambs Homer
 (b) Drift down, drift down Ronald
 (c) A birthday Woodman.

曲 目

I	ソ ナ タ 作品 57 (アパシヨナタ)	ペーターヴェン
	非常に早く	
	ゆつくりと元気よく	
	快速に然し余り早くなく	
II	(イ) ロ マ ソ ン ス 作品 12	メリカント
	(ロ) 山の精の夕べの踊り 作品 15の1	カスキ
	(ハ) クラコウ幻想舞踏曲 作品 14の6	パデレフスキー
III	(イ) エスの御名より	シュツツ
	(ロ) 我が信仰深き心	バツハ
IV	(イ) 景 色	アーン
	(ロ) イスパアンのばら	フオーレ
	(ハ) 緑	ドビユツシー
	(ニ) あやつり人形	ドビユツシー
休 憩		
V	(イ) 乙女の願い	シヨパンーリスト
	(ロ) ポロネーズ 作品 53 (英雄) 変イ長調	シヨパン
VI	(イ) 兵士の妻	ラフマニノフ
	(ロ) 愛人の墓にて	チャイコフスキー
	(ハ) しいられた花嫁	チャイコフスキー
VII	(イ) 羊と仔羊	ホーマー
	(ロ) 冬 景 色	ロナルド
	(ハ) お 誕 生 日	ウツドマン

腸

信頼される整腸消化剤

ビオフェルミン

腸は健康の源です
各種腸疾患の治療と
予防に 食後に忘れず
御愛用下さい

常用しても副作用は全くありません

製造 ビオフェルミン製薬株式会社 1.0錠 100円 500錠 310円

解 説

I ソナタ へ短調作品57 (熱情) ベートーヴェン

ベートーヴェン中期の最高峰をなす作品。彼は1802年友人クルムホルツに“私は今迄の自分の作品に対して満足していない。今後はもつと新しい路を歩むつもりだ”と語つたがこの奏鳴曲こそこの理想を完全に示したものと見える。

1804年にスケッチされ1806年に完成した。熱情の名は後に出版屋クラッツが附けたものでこれほど適当な名はない。

第一楽章 アレグロアツサイ

12/8拍子へ短調。嵐を予告する如く、陰々と何かに押えつけられた如く不気味な第一主題に始まり、間断なく鳴り渡る熱情の響きが全曲を通じ、最後に再び第一主題を回想しつつPPPに達してこの楽章を終る。

第二楽章 アンダンテコンモート

3/4拍子変長調。この楽章は一つの主題から成り前楽章に示された熱情の響きは影をひそめ、静かで愛らしい旋律が序奏なしに始まる。その主題が三回変奏され最後にもう一度主題が帰ってくるが、これは一層高音部で奏される。

第三楽章 アレグロマノントロツポ

2/4拍子へ短調。第一楽章と同じくソナタ形式で書かれており、はげしい情熱の響きに還る。

II a) ロマンズ 作品12 メリカント

A・メリカントは1893年フィンランドのヘルシングホルスに生れ、軽音楽の作曲家であり、又多くの民謡の編曲者であつたオスカーを父とした彼は、1912年—1914年ライブチヒでマックス・レーガー及びシュテファン・クレールの下に学び後1915年—1916年モスコでセルゲイ・ワシレンコについた。後1936年以後はヘルシングホルス音楽院の理論及び作曲の教授となつた。

彼の傾向は最初ドイツ後期ローマン派の流れを汲むものであつたが、後シェーンベルグの無調主義に興味を抱く様になつた。

この曲は三部形式の小品。手紡ぎ車の回転を思わすような左手の伴奏に乗つて長閑な旋律が奏でられるが、中間部では速度をはやめ、装飾が施される。やがてもう一度首部に還つて静かに了る可憐な曲。

II b) 山の精の夕べの踊り ウィルヘルム・D. カスキ (1885—)

カスキの音楽は日本には未だ広く紹介されていないが、フィンランドに生れ、ヘルシンキの音楽学校に学び、後バリー、ドイツに学んだ。次来フィンランド、コンサーヴァトリーのピアノ教師として、又作曲家として活動す。彼の作曲範囲は広く、シンホニー、ピアノ、セロ、ヴィオリンの為のソナタ、多数のピアノ曲及び声楽曲に及ぶ。

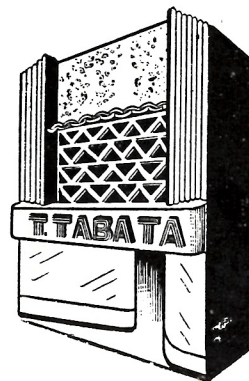
この山の精の夕べの踊りは小曲ながら、彼のすぐれた描写的手腕及び雰囲気への作成法をよく示している。曲は夕映の雲の大きく動く大空の下で踊りたわむれる山の精を描いたもの。

II c) クラコウ幻想的舞曲 作品14の6 バデレウスキー

バデレウスキー (1860—1941) はポーランドの生んだ大ピアニストで、一時は現代ピアノ独奏界の覇者とまで言われた。彼は演奏家として有名な程には作曲家としては知られていない。

このト長調のメヌエットが“クラコウ”と呼ばれるのは、クラコウ地方に流行つた舞曲だからで多くの男女が陽気に踊り、婚礼や誕生日を祝うのである。

この踊りを取り上げて彼は他にも数曲書いたが、自由な形式のうちに華々しい展開を見せる。この作品14の6は、その中でも最も優秀なものと評されている。



生地と
アクセサリーの店
田畑婦人洋装店
神戸・トア・ロード

Ⅲ a) エスの御名より

ハインリツヒ・シュツツ (1585—1672)

うるわしき御名エス
偉大にしておゝしき御名
かくも 強き御名
袖のめぐし子 エス
かくも 歌うに人を魅し
聞くに、心すがしく、
思うに なつかしき名名のあらんや
心の糧なる 御名エス
口には甘き蜜 耳にはよき調べ、
心には とわの喜び、魅力、
おゝ うるわしの御名 エス、
我れぞ たゝうる 君の御名を
すべの限りに。

b) 我が信仰深き心

S. S. バツハ (1685—1750)

(五句節のカンタタの中より)

マリア、
信深き 我が心よ、喜び歌へ、
主ぞ来ます。
去れよ苦難、去れよ悲しみ、
我ただに 言わん、
主ぞ来ます。

◎ 五句節一 (復活祭より五十日目の基督教の祭日)

ダイヤトーンラジオ

三菱電機株式会社

IV a) 景 色 ロナルド・アーン (1875-1947)

潮ざいの音も近い海沿いのブルターニュのみ捨てられた一角を私は知
っている。

秋の日、恋人よ、私達はそこへ行こう、

櫛の木は泉をかこみ、

櫛の木の散在するあたり古い淋しい水車がある、

清らかな泉の水は、人魚の目のように青く反射する。

黄葉の下をとび交う山がらよ、私達の為に歌つておくれ、

海よ、はてしなき波の底から昼も夜も私達を愛撫しておくれ。

洋家具製作販売・室内装飾 (中古品・家具敷物)
中古ピアノ売買)

米田家具株式會社

代表者 米田文治郎

神戸市生田区三宮町三丁目二八番地
(但省線元町駅東半丁浜側)

電話 重合 ㊟ 0622 番

b) イスパンのばら ガブリエル・フォーレ (1845-1924)

苔むす下なるイスパンのばら、

ムスルのジャスミン、オレンジの花も

匂いぞ劣る、

白いルイラ！ 君が息に

珊瑚の御唇 軽く笑めば

流るゝ水にもまさり 優しく

花に戯る風にもまさり、

友呼ぶ鳥の歌にもまさる、

おゝ ルイラ！ 口づけの跡

君が唇にいろはなく、

咲ける花の色は褪せて 紅きばらの香もうせぬ、

おゝ 君慕うやさしの胡蝶

わが心に翼を返せ

またも薫れ、苔むす床なる、イスパンのばらよ！

京 呉 服

志 よ う ぶ や

神戸元町三 電話元町㊟〇七七一

c) 緑 クロード・トビユツシー (1862-1918)

果物と、花と、葉のいつばいついた枝を持つて
私は来たのだ、お前の為にのみ脈うつ私の心に添へて、
されば 乙女よ、
お前の白い指で それを裂かないでくれ、
お前の可愛い目で 私の小さな贈物をしりぞけないでくれ、
夜明けの 風が私の額に凍らした露の跡もあらわに、
私はお前のもとに来たのだ、
あゝ、疲れはてた私を、お前の足許に休ませて
うまし時を 夢みさしておくれ、
お前の口づけのあとの 消えさらぬまゝに、
私の頭を静かにお前の胸に横えて、
こゝろよい慰めに沈みつゝ、暫しのまどろみのうちに、
恋の喜びの嵐を鎮めさしておくれ、
お前も亦、まどろみつゝ

c) 紅 クロード・トビユツシー

道化師、青ざめたピエロ
心も暗く かがみ行く
おかしい顔して、ペコペコ頭をさげて、
外では、お人のよい老医師ボローネが
銀の月夜に、ゆつくりと
薬草摘みをしてござる。
さてまた 浮気の 娘御は、
なりもかまはず、こつそりと 人目しので四阿へ、
会ひにゆくのはスペインの、伊達で勇気の海城様よ、
声も淋しく 帯い歌を、世にもひびけと 泣く夜鶯。

Baby Shop

Familiar

高級子供服専門店

神戸市生田区三宮トアロードセンター街角

Tel. ☎ 1 3 2 6

大阪阪急百貨店4階

ファミリアグループ特選売場

V a) 乙女の願い (ポーランドの歌) ショパン—リスト編曲

これはもともとショパンが作った歌曲である。

それをリストがピアノ独奏用に編曲した。

可憐なこの曲はかえつてリストの編曲によって有名になつたほどで殆んどリストの創作と言える程彼の編曲技巧を發揮している。

b) ポロネーズ 作品53 (英雄) 変イ長調 ショパン

ショパンはポーランドの典型的な宮廷音楽であるポロネーズを全部で10曲書いたが、その中でもこの六番は普通英雄として広く親しまれ、その男性的な熱情、壮大な構成力、その楽想の豊かさに於て、彼の音楽の最高傑作の一つと云われている。曲は力強い序奏部を持つ自由な三部形式によりなり、トリオの部分では変ロ調に転じて、華麗で優雅な調べを歌い、第一部と鮮やかなコントラストをなす。第三部で再び原調に帰り雄渾壮大な終結部に達す。

皆様おなじみの

市田寫眞館

神戸市元町通2丁目角電話元町④1616

VI a) 兵士の妻 セルゲイ・ラフマニノフ (1873—1943)

果しない悲しみ、幸うすぎ父のない子と共に、

それでも 私はなおも深く愛情に生きる、

運命がこんな役割を私に与えたのだ、

いかめしい人々が私達をさき、いとしい人を連れ去つて、

補充兵としたのだ、

かくて私は兵士の妻、

見知らぬ人の屋根の下に、淋しく生きて年老ふる、

運命がこんな役割を私に与えたのだ。

b) 愛人の墓にて ピーター・イリツチ・チャイコフスキー

(1840—1893)

いとしい 君よ、つぶやきもせず、なげきもせず、

寂然と、われら 明日を待つ、

ひそやかに、淋しく、み墓のごとく、

柳は 悲しく うなだるるを！

み墓の文、読む柳

そのごと われは 傷きし心に

すぎ去りし さちをぞ読む、

み墓に 消えて 久しきものを！

c) しひられし花嫁 チャイコフスキー

1. 私は露けき牧場の草の葉
さ緑の野辺に育ちて、
さるを時経ずに、草刈鎌におののき
なえゆく手足は強き日におののく、
あゝ 私の心よ、なんとお前の重いこと！
私になふ、さだめの、この重さ、このつらさ！
2. 私は森のそばにゆらく かつらの木
陽のあたる所に華やぎて誇らかに立ちて、
さるをかの人々、枝引き裂き
奪ひとりて 花輪を編みぬ。
3. 私は父上の 美しい一人娘
私は母上の いくしみの御手に生ひしもの、
さるをかの人々、かくもいとほしき花嫁の花輪を作り、
恩知らぬ、白ひげの人に嫁かせぬ、
あゝ 私の心よ、なんとお前の重いこと！
私になふ、さだめの、この重さ、このつらさ！

工 藤 齒 科

神戸市生田区京町70 西宮市仁川34
松岡ビル五階 仁川停留所二丁目
電話元町④1177 電話仁川90

VII a) 羊 と 仔 羊 シドニー・ホーマー (1864-?)

四月のあした、戸の外は四月の風が吹いていた、
道の辺で羊が仔羊を連れて私のそばを通りすぎた、
四月の夕べ、私は神の仔羊を思った。
仔羊達は疲れ、弱い人間のような声をたてゝないていた、
私は、争ひもせず死に赴く、神の仔羊を思った。
青い青い山の露けき牧場の美しさ、
小さな身の憩い、小さな足の憩い、
緑の丘の上の神の仔羊の憩い、
いかめしい二つの十字架にはさまれた恥辱の十字架、
四月の夕べ、戸の外には四月の風が吹いていた、
私は仔羊を連れて羊を見、そして神の仔羊を思った。

b) 冬 景 色 ランドン・ロナルド (1873—1938)

追われ、追われて、空から
ふりしきる小さい白い雪の花びら
疲れた目におちかゝる眼りのように
遂ひの憩ひをもたらしつゝ
追われ、追われて、空から
ふりしきる小さい白い雪の花びら
私の愛情に、そつと、そつと ふりかゝる、
漂いおちる 小さい白い雪の花びら
み空のみ使い達よ、
情熱の風に吹かれ、
私の愛情に そつと、そつとふりかゝる
小さい白い漂ふ雪の花びら。

c) お 誕 生 日 R.ハンテイングトン・ウツドマン

(1861—1943)

私の心は歌う鳥
葉はしめつた若枝の中に
私の心はリンゴの樹
枝は木の実にたわむ
私の心は虹色の貝
長閑な海に撓を漕ぐ
私の心は、さらに喜びあふる、
いとしい人の来るものを、
絹と綿毛の高座をもうけ
鳩と柘榴と、百の眼をした
孔雀を彫り、
金と銀のブドーと葉、
銀のいちはつを
ちりばめよ
私の命の誕生日が
来るものを。

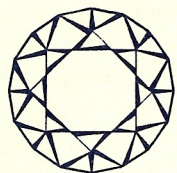
結核にアツツの効果

純度の高いスミフォン(シドランド)を使って

21 結核菌の減少
4 咳量の減少
3 咳の好転
5 体重の増加
6 体温の低下
7 赤沈の好転

スミフォン

旧日新 住友化学工業株式会社



東洋紡

ダイヤモンド毛糸